

## 技術・家庭科〔家庭分野〕学習指導案

大竹市立大竹中学校

教諭 馬越 幸子

1 日時 平成24年11月22日(木) 11:00～11:50

2 日時 第1学年

3 題材名 衣服の選択と手入れ

4 題材設定の理由

### (1) 題材観

近年、衣料品大型チェーン店の台頭で、「安ければ品質が悪い」という考え方は、もはや過去の常識となり、安い品質も良い衣料品が手軽に購入できるようになった。また、そのためか衣服を大切に長く着るという習慣が薄れつつあるように感じる。かつての着物のように、何度も繕い直して着古し、最後は雑巾として使ってから捨てるということも少なくなってきた。着られなくなったら安易に捨てて買い直せばよいという考えは、衣服を購入する際、デザイン重視で選択され、材料や手入れ方法などの条件が軽視されていることにもつながっていると思われる。

衣生活を取り巻く環境が日々変化してきている現代において、これからの私たちに求められていることは、衣服の機能を理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫することができるとともに、既製の適切な選択や日常着の手入れができることである。

本題材は、中学校学習指導要領技術・家庭〔家庭分野〕の「C(1)衣服の選択と手入れ」にあたる。自分の衣生活に関心をもたせるとともに、衣服の適切な選択や手入れができるようし、生活における実践につなげ、これからの衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

### (2) 生徒観

この学級の生徒は、とても明るく積極的によく発表し授業に臨むことができるが、自分の考えを相手に分かりやすく説明したり、まとめたりすることに苦手意識を持っている。また、グループでの活動においては、お互い協力し合い作業を進めることができる。

衣生活についてアンケートをとったところ、「自分の衣服を自分で洗濯しますか。」という問いに対して、毎日する0%、一週間に2～3回する3%、月に数回する27%、ほとんどしない70%という結果であった。また、「ボタンが取れたり、裾がほころびた時は、だれが補修しますか。」という問いに対しては、自分でする23%、家族の誰かにやってもらう66%、補修しない11%という結果になった。このことから、ほとんどの生徒が衣服の手入れを自分でせず、家族任せにしていることが分かった。

### (3) 指導観

指導にあたっては、目的にあった適切な衣服を選ぶことができ、大切に手入れし保管をすることにより、長く着られることを知るとともに、着られなくなった衣服の再利用を考えることにより、物を大切にすることを養いたい。特に、アンケートの結果からもわかるように、衣服の手入れを家族任せにしている生徒が多いことから、自分の衣服の手入れを自分でできる知識・技能を確実に習得させ、生活に生かせるよう指導していきたい。そのために、家庭で使用されている洗剤の調査などを通して関心を高め、衣服の汚れや洗剤の働きを調べる実験により科学的に理解させ、「なぜそうなるのか。」または、「なぜそうしなければならないのか。」といった根拠を考えさせながら判断し、自分のことばでまとめる言語活動を取り入れ、授業のねらいを確実に達成させる。さらに、衣服計画を通して環境に配慮した衣生活に関心を持たせるように指導をしていきたい。また、学校全体で取り組んでいる「5つの共通実践項目」のうち学年の柱でもある「聞く姿勢」を徹底し、静かに落ち着いて授業に取り組むことを常に意識させ、課題意識を持って授業に臨ませ、生活をよりよくしていこうとする実践的態度を育てていきたい。

## 5 題材の目標

○衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。

【学習指導要領の内容C (1)ア】

○衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができる。

【学習指導要領の内容C (1)イ】

○衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。

【学習指導要領の内容C (1)ウ】

## 6 題材の評価規準

ア 生活や技術への関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し、創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識・理解
①衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。 ②衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心をもち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。	①目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。 ②目的に応じた衣服の適切な選択について、収集・整理した情報を活用している。 ③衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。	①既製服を選択するために必要な情報を収集・整理できる。 ②衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。 ③補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。	①衣服の社会生活上の機能について理解している。 ②衣服の計画的な活用の必要性を理解している。 ③既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。 ④洗濯の要点と方法について理解している。 ・衣服材料の手入れに関わる性質 ・洗剤の働きと種類 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 ・汚れ方に応じた洗い方 ⑤補修の目的と布地に適した方法について理解している。

## 7 指導と評価の計画 (全9時間)

次	学習内容 (時数)	評価					
		関	工	技	知	評価規準	評価方法
一	衣服のはたらきを考えよう (1時間)	○				ア①衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。 エ①衣服の社会生活上の機能について理解している。	行動観察 ワークシート
二	自分らしい着方を考えよう (1時間)		◎			イ①目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。	ワークシー 行動観察 (相互発表)
三	衣服を選ぼう (1時間)			○		ウ①既製服を選択するために必要な情報を収集・整理できる。 エ③既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。	行動観察 (グループ発表) ワークシート
四	既製服の表示を知ろう (1時間)		○			イ②目的に応じた衣服の適切な選択について、収集・整理した情報を活用している。	ワークシート

五	衣服の手入れと補修をしよう (4時間) 布の性質 洗濯の方法とその必要性 洗剤の役割 (本時 3/4) 補修	◎			ア②衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心を持ち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。 イ③衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。	行動観察 発表 ワークシート
			○	◎	エ④洗濯の要点と方法について理解している。 ・衣服材料の手入れに関わる性質 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 ・汚れ方に応じた洗い方 ウ②衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。	ワークシート レポート
				○	エ④洗濯の要点と方法について理解している。 ・洗剤の働きと種類	ワークシート
				◎	ウ③補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。 ○エ⑤補修の目的と布地に適した方法について理解している。	作業用布 ワークシート
六	衣服の計画と再利用について考えよう (1時間)			○	エ②衣服の計画的な活用の必要性を理解している。	ワークシート

※指導に生かす評価として、毎時間、自己評価表を記入させる。

#### 8 本時の展開 (本時は第五次の3時間目)

- (1) 本時の目標  
実験を通して、洗剤の働きを理解する。
- (2) 本時の評価規準  
洗剤の働きを理解している。【生活や技術についての知識・理解】
- (3) 準備物  
汚れが浮き上がった(ニンヒドリン反応による) Tシャツ, 液体洗剤, 湯, 毛糸, 綿布, すず, バター, オイルレッド, ビーカー, ガラス棒
- (4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意事項 (◆努力を要すると判断される生徒への手立て)	評価規準 (評価方法)
導 入	1 前時に実験したTシャツを見ながら、洗濯の必要性を知る。	○ニンヒドリン反応が出ているのは、たんぱく質の汚れであることを確認する。	
	2 洗剤の種類を確認する。 3 本時のねらいを確認する。	○思いつく洗剤の商品名をできるだけたくさん発表させる。	
	本時のねらい 実験を通して、洗剤の働きを理解する。		
	4 実験の手順を確認する。 ・4種類の実験の説明 ・実験道具について ・注意事項	○聞く姿勢を徹底させ、手順がしっかり理解できるようにていねいに説明する。 ○4種類の実験方法を黒板に明記し、いつでも確認できるようにする。(視覚化)	

<p>展開</p>	<p>5 実験をする。</p> <p>ビーカーA：湯 ビーカーB：洗剤液（湯に洗剤を溶かす）</p> <p><b>実験①</b> ビーカーに毛糸を入れ、沈み方を調べる。</p> <p><b>実験②</b> ビーカーに、オイルレッドで染めたバター<small>（注）</small>の付いた布を入れ 30 秒そのまま置く。その後、ガラス棒でかき混ぜ、布を取り出す。汚れの落ち方、布に付着している汚れの状態、水面に浮いている油の形を調べる。</p> <p><b>実験③</b> ビーカーにすすを入れ、ガラス棒でかき混ぜる。すすの状態を調べる。</p> <p><b>実験④</b> ③のビーカーに布を入れ、ガラス棒でかき混ぜた後、布を取り出す。布に付着している汚れを調べる。</p> <p>6 実験結果から分かる洗剤の働きをまとめ、グループで話し合い、結果を発表する。</p> <p>7 汚れの落ちるプロセスを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日のポイント</p> <p>①浸透作用 ②乳化作用 ③分散作用 ④再汚染防止作用</p> </div>	<p>○実験をしながら、A・Bの違いを記録させる。実験の記録は、単語や二語文で終わることのないよう指示をする。</p> <p>○本時のねらいにせまるつぶやきを拾い、肯定的に評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;洗剤液の様子について予想される生徒の発言&gt;</p> <p>◎洗剤液が繊維にしみこんでいる。 ◎洗剤が汚れを包み込んでいる。 ◎すすが全体に分散している。 ◎布だけではなくガラス棒にもすすがつかない。</p> </div> <p>&lt;予想される生徒の記述&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 30%;">ビーカーA 湯</th> <th style="width: 30%;">ビーカーB 洗剤液</th> <th style="width: 30%;">洗剤の働き</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実験①</td> <td>湯に浮いたまま沈まない。</td> <td>徐々に洗剤液がしみこんでいき、〇秒後には下に完全に沈んだ。</td> <td>繊維の中に洗剤が入り込む。</td> </tr> <tr> <td>実験②</td> <td>油がかたまりとなって、水面に浮く。大きな油のかたまりがある。</td> <td>小さな粒となって洗剤液の中にある。</td> <td>油を包み込む</td> </tr> <tr> <td>実験③</td> <td>油と一緒に黒いすすが付き、ビーカーのまわりやガラス棒にもべったりとついている。</td> <td>洗剤液全体が黒っぽくなっている。すすが散らばっている。</td> <td>液の中で分散する。</td> </tr> <tr> <td>実験④</td> <td>布にべったりとすすや油が付く。</td> <td>布に少しは汚れが付くが、湯ほどではない。</td> <td>布に汚れが付かない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○実験結果から分かる洗剤の働きを自分の言葉でまとめさせる。</p> <p>&lt;評価の判断基準&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価B：二つのビーカーの液体や毛糸、布の違いを具体的に記述し、水に洗剤を加えることで、可能になった作用を記入している。 (A：布や繊維と汚れの様子を関係付けて具体的に記入している。)</p> </div> <p>◆自分の言葉でうまくまとめられない場合は、ヒントを与えてワークシートに記述させる。また、友達の意見を聞きながら、足りない言葉を付け加えさせる。</p> <p>○班ごとに話し合った結果を模造紙にまとめさせ、黒板に貼り、それぞれ発表させる。</p> <p>○実験結果と関連させながら、なぜそういう作用が汚れを落とすために必要なのかを説明する。</p> <p>○汚れの落ちるプロセス（界面活性剤の作用）のキーワードをカードに書いておき、目立つように黒板に貼る。（視覚化）</p> <p>○教科書の「界面活性剤の働き」の写真をしながら、汚れの落ちるプロセスを確認させる。</p>		ビーカーA 湯	ビーカーB 洗剤液	洗剤の働き	実験①	湯に浮いたまま沈まない。	徐々に洗剤液がしみこんでいき、〇秒後には下に完全に沈んだ。	繊維の中に洗剤が入り込む。	実験②	油がかたまりとなって、水面に浮く。大きな油のかたまりがある。	小さな粒となって洗剤液の中にある。	油を包み込む	実験③	油と一緒に黒いすすが付き、ビーカーのまわりやガラス棒にもべったりとついている。	洗剤液全体が黒っぽくなっている。すすが散らばっている。	液の中で分散する。	実験④	布にべったりとすすや油が付く。	布に少しは汚れが付くが、湯ほどではない。	布に汚れが付かない。	<p>洗剤の働きを理解している。</p> <p>&lt;知・理&gt; ワークシート</p>
	ビーカーA 湯	ビーカーB 洗剤液	洗剤の働き																				
実験①	湯に浮いたまま沈まない。	徐々に洗剤液がしみこんでいき、〇秒後には下に完全に沈んだ。	繊維の中に洗剤が入り込む。																				
実験②	油がかたまりとなって、水面に浮く。大きな油のかたまりがある。	小さな粒となって洗剤液の中にある。	油を包み込む																				
実験③	油と一緒に黒いすすが付き、ビーカーのまわりやガラス棒にもべったりとついている。	洗剤液全体が黒っぽくなっている。すすが散らばっている。	液の中で分散する。																				
実験④	布にべったりとすすや油が付く。	布に少しは汚れが付くが、湯ほどではない。	布に汚れが付かない。																				
<p>まとめ</p>	<p>8 まとめ</p> <p>洗剤の種類について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やってみよう！</p> <p>家で使用している洗剤を調べてくる。</p> </div> <p>9 自己評価カードを書く。</p>	<p>○実物の洗剤を見せながら、洗剤の種類についてふれ、家で使用している洗剤と液性を調べてくるよう指示する。</p> <p>○CMなどでよく耳にする洗剤を見せることにより洗剤の種類に気付かせる。</p> <p>○洗剤の正しい使い方を発問し、次時につなげる。</p>																					